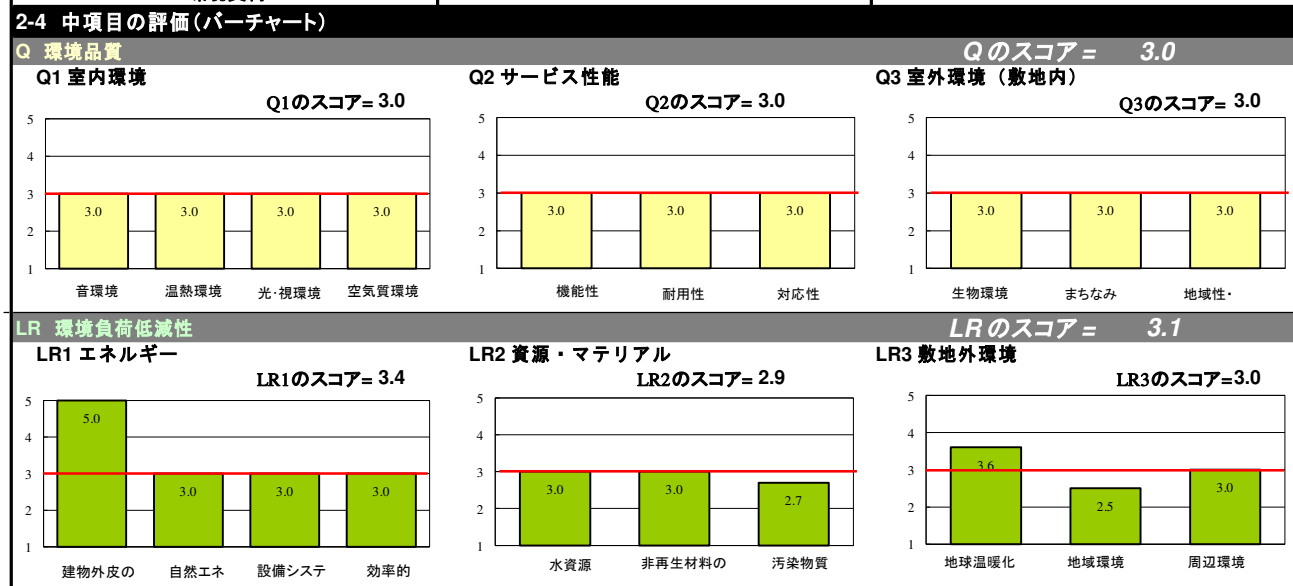
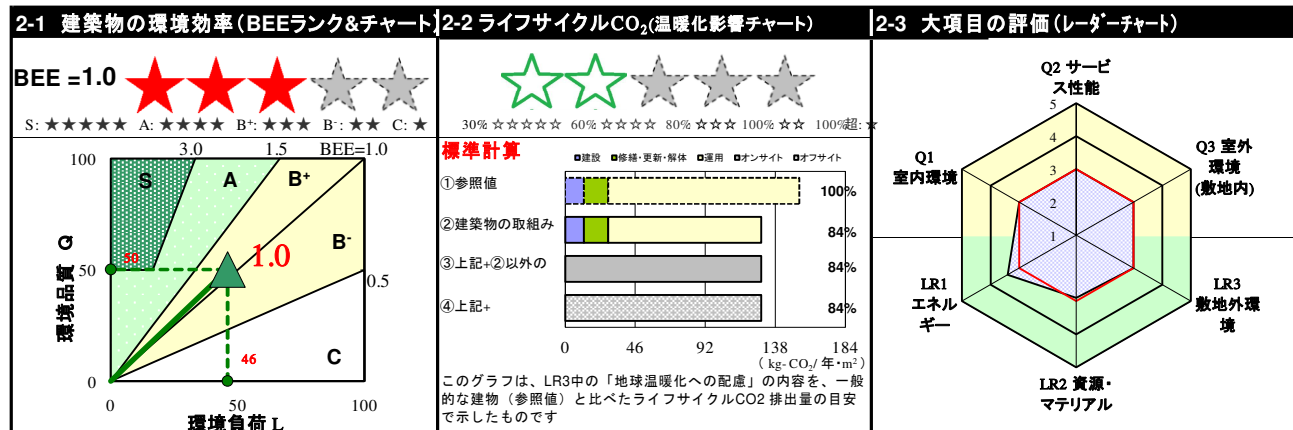


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)河内長野市西乃山町有料老	階数	地上6F
建設地	大阪府河内長野市西乃山町	構造	RC造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年10月28日
敷地面積	1,405 m ²	作成者	馬場正文
建築面積	789 m ²	確認日	2024年11月6日
延床面積	3,660 m ²	確認者	馬場正文



3 設計上の配慮事項		
総合		
大阪府河内長野市に建設される有料老人ホームの計画である。 設備システムの高効率化を図り環境負荷に配慮するとともに、災害バルクの設置により入居者の安全性に配慮した計画としている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
換気量及び自然換気性能を十分に確保することで、施設内の空気質環境の向上を図っている。	共用部及び要介護の入居者が居住する際には汚物処理室を設け、廃棄物の搬出に小荷物専用昇降機を設置するなど、維持管理機能の利便性向上を図っている。	主な設備機器は屋上に集中して設置する、敷地内に可能な限り緑地を確保するなど、敷地内の歩行者空間等の暑熱環境に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外皮断熱性能を確保し、BEIm0.8を達成させることでエネルギー効率の向上を図っている。	水資源の保護を目的とし、節水型便器を採用している。	LCCO ₂ 排出量削減に配慮することで、地球温暖化への影響に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)河内長野市西之山町有料老人ホーム計画新築工事					
建設地		大阪府河内長野市西之山町					
用途／区分		病院 工場					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	断熱性能					5	
		評価対象外				評価対象外	
④	エネルギー消費性能					3	
		評価対象外				評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用					3	
		評価対象外				3	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告						報告しない	
-------------	--	--	--	--	--	-------	--

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.6	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善	2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	3.0	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		